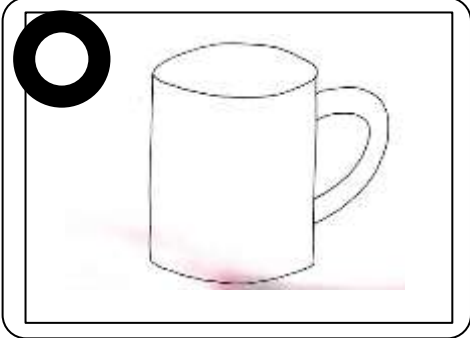



ステップ1

大項目	④コミュニケーション手段の形成と活用
小項目	【2】コミュニケーションのための視覚的な支援
タイトル (教材名)	写真カード
目的 身につけてほしい力	写真カードを用いて相手の話を理解したり、自分の要求を相手に伝えたりする。
教材の概要 材料 作り方 工夫点など 画像	写真をラミネートするときには、ラミネート用紙に5mm程度余白を持たせると剥がれづらい。  カードの角でケガをすることがあるので、必ず丸く切っておく。
教材の使用方法	メリット：用意することが簡単。表したい物その物を表現できる。 デメリット：背景などの不必要な情報が入るため、情報が焦点化しづらいことがある（物を写す時は、単色の紙の上で撮る）。視覚過敏の子どもには不向き（自閉的な傾向を示す子どもは、写真の中心を見ているとは限らない）。
	<div data-bbox="178 1205 730 1482" data-label="Text"> <p>背景にはできるだけ対象物以外のものが写らないようにする。 対象物がはっきりとわかるように、無地の紙や布を敷くと良い。</p> </div> <div data-bbox="890 1191 1359 1518" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="475 1518 954 1854" data-label="Image"> </div>
その他	

## ステップ2

大項目	④コミュニケーション手段の形成と活用
小項目	【2】コミュニケーションのための視覚的な支援
タイトル (教材名)	イラストカード
目的 身につけてほしい力	イラストカードを用いて相手の話を理解したり、自分の要求を相手に伝えたりする。
教材の概要 材料 作り方 工夫点など 画像	<p>絵をラミネートするときには、ラミネート用紙に5mm程度余白を持たせると剥がれづらい。</p> <p>カードの角でケガをすることがあるので、必ず丸く切っておく。</p>
教材の使用方法	<p>メリット : シンプルに表現できる。不必要な情報が入らない。物の概念を表現することができる(1つのコップでもいろいろな種類のコップを表すことができる)。</p> <p>デメリット : 物と絵をマッチングさせる力が必要。適切なイラストを描いたり、インターネットで検索したりする必要がある。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">  </div> </div>
その他	何枚かのカードをリングでまとめ、持ち歩けるようにしておくとう便利。

### ステップ3

大項目	④コミュニケーション手段の形成と活用
小項目	【2】コミュニケーションのための視覚的な支援
タイトル (教材名)	文字カード
目的 身につけてほしい力	文字カードを用いて相手の話を理解したり、自分の要求を相手に伝えたりする。
教材の概要 材料 作り方 工夫点など 画像	<p>絵をラミネートするときには、ラミネート用紙に5mm程度余白を持たせると剥がれづらい。</p> <p>カードの角でケガをすることがあるので、必ず丸く切っておく。</p>
教材の使用方法	<p>メリット：用意することが簡単。不必要な情報が入らない。カードがない場面でも、紙とペンがあればすぐに作ることができる。紙、ペン（太・細）、などをセットにして持ち歩いおくと便利。</p> <p>デメリット：文字を読む力が必要。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <h1 style="margin: 0;">ぷうる</h1> </div>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>長音は基本的にカタカナに使用するもので、カタカナを学習する前は「ぷうる」と表記することがあるが、普段見慣れないので「ぷーる」、もしくは「プール」の方が認識しやすい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>文字はひらがな→カタカナの順で習得することが一般的で、カタカナをまだ習得していない児童生徒もいる。しかし、普段カタカナで表記するものは、未習得でもカタカナで表記した方がわかりやすい場合もある。</p> </div> </div>
その他	